



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
ツムぐ学生

第56号

2017年8月24日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.35

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

待つことの大切さ

もや感、考えさせるために！



算数の指導してくれているSPさんを見ると、時々とてもよい支援をしてくれているのに出くわします。それは「待つ」という支援です。子どもが問題を一生懸命解いているときに、横でその様子を見ながらじっと「待つ」姿が、あちこちで見られます。

教えてしまえば問題を進めることはたやすいのですが、それでは子どもの算数の「力」には当然なりません。

‘うーん’とうなりながら考える時間、それこそが大事

になってきます。そして、最終的に自力で解ければ、それは子どもにとって大きな「自信」になります。それらを分かっているからこそ、子どもをじっくり待つ支援ができるのです。

教職を目指す学生さんは、「子どもに何かを教える経験」をしていると思いますが、「子どものために」という視点から、教えたがり（教職を目指す人は、悪気はないのですが、教えたがる性分の人が時々、いるのですが…）の気持ちを抑えて、あえて「待つ」という支援をしてくれています。これも、やってみないと分からないことです。SPさんにとって、このわくわく算数教室の経験、教えるという経験は、必ず将来、役に立ちます。待つことができる先生は、力量をぐんとあげることができますから。

わくわく算数は個別での学習形態です。子どもにとっても、こういう支援はとてもありがたいことです。「今日はたくさん考えて、たくさん悩んだけど、できる喜びを味わった」となるわけです。常に子どもの成長を考えた上での支援に、感謝します。

